



信陽舎の知名度を高めるため 新パンフレットの配布にご協力を！

《 県人寮存続の危機を乗り越えるために 》

県人寮が直面している存続の危機については、会報7号の特集で詳しくお伝えしましたが、少子化、経済的苦境による地元志向などの要因の上に、コロナ禍が追い打ちをかけるかのように襲いかかりました。営業自粛や時短要請などによる収入の減少、通学不要のリモート授業などにより、経済的負担が大きい首都圏の大学が敬遠される傾向が一層強まりました。

既に、信濃毎日新聞で報道されたように、長野県人寮の一つである信濃寮（公益財団法人信州学生協会が東小金井で運営）が、この危機を乗り越えることができず、令和3年3月31日をもって閉鎖しました。この問題は信濃寮だけの問題ではなく、首都圏にある道府県人寮の全てが直面している問題だというのが現実です。

信陽舎においても、令和2年度は13名欠員の寮生17名でスタートしましたが、リモート授業による中途退寮者3名と3月卒寮生7名を加え、令和3年度の寮生募集は23名という、かつてない大量の補充が必要となりました。

昨年度の募集では応募者が極端に少なく、新入寮生は2名という状況から、今年度も苦しい募集となることが予測されましたが、会報7号の特集記事を読まれた多くの舎友の皆様のご協力をいただいたお蔭で、応募者も増え、満室とまではいきませんが7名の補充ができました。

今後も厳しい状況が続くと予測されます。地元で信陽舎をPRしていただいた舎友の皆様からは、信陽舎を知らない親がほとんどだった、との報告を頂いています。

また、これまで長年入寮面接を行い、応募学生に「信陽舎を知ったきっかけは？」と質問した回答の中で最も多かったのは、知り合いや親戚などから（口コミ）という答で、次に多かったのが、長野県のホームページ（県人寮紹介）で知ったという答でした。

いかに口コミが大事であるかが分かります。つきましては、信陽舎の知名度をたかめるために、パンフレットを是非ご活用下さい。配布のための必要部数を事務局にご連絡いただければ速やかにお届けいたしますので、お気軽にご用命をお待ちしています。



長野県出身者の学生生活を支援する

信陽舎

在京男子学生寮

～1世紀を超える歴史を誇る～



公益財団法人 信陽舎

〒180-0021 東京都武蔵野市桜堤1丁目119番9号

TEL・FAX 0422-51-0218

URL: <http://www.shinyosha.or.jp>

信陽舎の新パンフレット(表紙)

【信州の明珠財宝 ⑥】 旧中山道 妻籠・大妻籠宿

国初の重要伝統的
建造物群保存地区



妻籠宿は中山道42番目の宿場であり、国の重要伝統的建造物群保存地区として全国で最初に選ばれた江戸の風情を残す宿場。妻籠宿は中山道と伊那街道の分岐点として交通の要衝として賑わった。大妻籠宿は馬籠峠への途中にある江戸期にタイムスリップしたかのような小さな宿場。妻籠宿から大妻籠、男滝・女滝、馬籠峠を越えて馬籠宿への旧中山道は日本の原風景の宝庫。

住居移転しました

詳しい連絡情報をご希望される場合は
舎友会事務局までお問い合わせ下さい

宮島 直司（50）移転先：愛知県名古屋市中区
水野 善文（414）移転先：長野県塩尻市広丘吉田
山崎 達也（584）移転先：千葉県松戸市本町
保坂 直人（595）移転先：東京都立川市柏町





半世紀の伝統をもつ学び舎 信陽舎 待望の増築工事完成！昭和34年10月25日に落成式

緑深い林に囲まれた静かな武蔵野の一角に礎々として建つ白い建物——これが信陽舎である。遠く明治の昔から大塚、馬橋に移って武蔵野市境に居を定めるまで半世紀の歴史が流れている。そして今年7月待望の増築工事が完成、関係者を集めての落成披露式が10月25日午後1時から同舎で行われる。幾多の偉材、英才を出した信陽舎の今昔にスポットをあてて記念特集とした。

(昭和34年10月20日付「東都信州新聞」に掲載された記事より)

中央線武蔵境駅を降りバスで五分、桜堤公園の中央で下車すると前方約百米のところに木立で囲まれた一角、太い門柱に「信陽舎」の標札がつつましく掲げられている。

いまでこそ公園アパートが建ち並び、小学校も付近に建って一大住宅地となっているが、つい一、二年前までは駅から同舎までうっそうとした林の連なりであった。バスも勿論なく、駅から二十分の道のりを歩か、或は五日市街道からバスを利用したものだという。

信陽舎が現在地に建ったのは昭和三十一年九月だった。それまでの五十年間、大別して三つの時代があった。すなわち大塚台時代、馬橋時代、空白時代である。

【その一】大塚台時代

明治三十九年より昭和二年までの十八年間、小石川大塚町六十八番地にあった。敷地三百坪、木造総二階約百二十坪の建物であった。それまでは東京遊学生が五、六人ずつで下宿あるいは自炊生活をしていたが、後輩の勉学に多少でも尽くしたいと有力者の間から学舎建設の相談が自然と盛り上がり、寄附金を持ち寄って建てたのが信陽舎の始まりである。信州の東京遊学生のために建てられた学生寮は、先ず諏訪の長善館、次に松本、上伊那の尚志社があり信陽舎は三番目の設立であった。すなわち下伊那出身の東京遊学生の身心ともによりどころとなった信陽舎の歴史が始まったのである。当時の毎月の経費は舎費五十銭、食費六円六十銭で計七円十銭だったという。その頃本郷、神田附近の下宿では十五円から二十円かかったというから、学生には大助かりだったに違いない。ところが、大正十二年九月一日の大震災で信陽舎は倒壊を免れたものの、舎屋は傾き、屋根瓦が落ちて雨漏りするもので、応急処置を施したものの、根本対策を樹てざるを得なくなった。折も折、地主との間に地代値上げや借地期間の問題で紛争が起こったもので、杉並区馬橋三丁目に約四百坪の宅地を買入れ、新築して昭和二年十月十六日移転した。

【その二】馬橋時代

馬橋時代の信陽舎は、高円寺と阿佐ヶ谷駅の間にあたり、当時としてはいわゆる新興地であった。二十七室で収容能力三十名だったが、時には応接室などを利用して四十名も収容したこともあるそう。この馬橋時代は昭和二十年五月二十三日の大空襲にあって焼かれるまでの十八年間続いた。焼跡の隣家からアパートへ、更に当時の理事長高橋宅に寄宿するなど八方手を尽くしたが戦後の混乱に抗することはできず遂に解散してしまった。ここで特筆したいことは、当時の学生達は寮が焼ける前、度々附近の戦災地へ出かけて消火活動を果たして度々表彰されたことである。ここにも信州健児の意気がかがえる。

【その三】空白時代と武蔵境時代

さて戦火に焼失した馬橋寮は解散し、約十年間の空白時代を迎える。その間いく度か再建の話があったが機熟せず、三十年に至り、郷里や在京の元舎友、有志の間に再建の聲が高くなり、旧敷地を売り払い、現在地に上伊那出身の実業家小町谷氏の遺族の所有する邸宅を買入れ、和洋七室の信陽舎が復興、更に歩を進めて今回の増築となったもの。増築部は木造二階建て九二・五八坪、十四室、旧館と合わせると二十室収容人員四十四名となった。これに要した費用は約五百万円、大部分を篤志寄附に仰いで完成した。

至り尽くせりの理想的な設備

信陽舎の門を入るとすぐ右手に旧館があり、左手から正面にかけて木の香も新しい新館が建っている。正面の玄関を入るとそこが食堂兼談話室で、入口に現理事長加納金三郎氏(号竜水)の筆になる「不学不食」の額が掲げられている。食堂にはテレビもあり、学生達には憩いの場であると共に、学生間の融和と志操の醸成に役立っているようである。

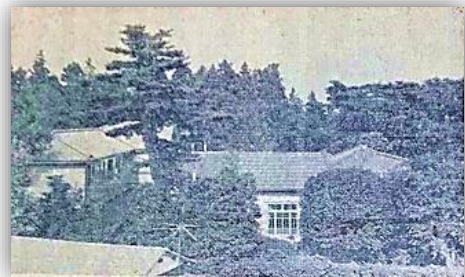
食堂の左隣には大きな洗面所があり、一尺角程の升目に組んだタナに洗面道具がきれいに並んでいる。寮生室は一室六畳又は八畳で、一室に二人、これが十三室あり、二階には予備の小室が一室設けられて、計定員二十八名となっている。

寮生室のドアを開けてみよう。三尺角の玄関の右側は洋服などの格納所と下駄箱が造り付けになっており、部屋は和洋折衷式、窓際に机が二つ背中合わせに並び各机の上の壁には造り付けの書棚が付いている机上の蛍光灯スタンドもすべて備え付けで、学生は布団と身の廻り品を持ってこれだけでよいという至り尽くせりの親切さである。洋間もあり、これにはベットの備え付けであるがベットの上にはタミで少しでも故郷に近い環境を残そうとの親心か——。ベットの下は押入れになっていて狭い空間を上手に利用した設計者の苦心のあとがかがえる。

信陽舎役員

〔理事長〕 加納金三郎 〔常任理事〕 宇佐美珍彦 〔理事〕 伊藤文寿、小島利雄、金田真治、上松貞夫、塩沢総一、吉沢武雄、西沢寛志、北原徳次郎、牧野隆直、吉沢広司、中島賢二郎 〔監事〕 吉沢弥吾、栗田千足、大沢実

〔評議員〕 河竹繁俊、大沢勝人、小松三郎、後沢信吾、鈴木英雄、北原広男、加納秀雄、大野実雄、印南高一、松尾良一、北原三郎、古島敏雄、北原覚一、三石孝之、萱垣栄一、松井飯田市長、各高等学校長、小笠原町村会長、代田源六郎、林小六、福島庄司、大平節蔵、山下順蔵、森本信也、知久陽之祐、林利次、伊藤喜一、青島愛二、市村保人



木立に囲まれた昭和34年当時の信陽舎



《 総会案内の出欠返信ハガキの通信欄、メール等より 》

- 宮島 直司(50): 【転居のお知らせ】 拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
このたび左記へ転居いたしました。こちら方面にお越しの節はぜひお立ち寄り下さいませようお待ち申し上げます。
(注)新住所は、愛知県名古屋市港区ですが、個人情報保護のため町名番地等は表示を差し控えます。詳しくお知りになりたい方は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。
- 金田 憲治(164): ご無沙汰しています。コロナで2月以降上京していません。大変なことです。感染拡大の対策が確立されてきていますが、まだまだです。舎友の皆様との一献は一番望むところですが、次回にと考えています。寮も空室があるとのことですが、出来る限り声をかけるようにします。お元気で。(会報第7号の締切後のため今号に収載)
- 長沼 伸明(411): 信陽舎の同期で連絡を取っていたところ、会報などが届いていないので住所登録の変更をしたいとの申し出がありました。私から住所などを伝えても良いとのことでしたので代理でお伝えします。
水野善文(舎友No.414)さん、長野県塩尻市(詳細は事務局までお問い合わせ下さい)在住で私と同じ時期に信陽舎に居た者ですので、住所登録を宜しくお願いします。

《 2021年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

- 長谷川 廣子(M2): 笑顔花咲く一年になりますように。健康に気をつけて頑張りたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
- 塚田 浩一(S1): HAPPY NEW YEAR 昨年はコロナで気が滅入ることばかりでしたが、今年は少しでも明るい年になって欲しいですね。ご健勝でいい一年になりますように。泰史が大変お世話になり有難うございました。
- 宮川 章義(14): 初春のおよこびを申し上げます。信陽舎をよろしくお願いします。
- 原田 守啓(18): 賀正 本年が信陽舎にとって良い年でありますようお祈り申し上げます。
- 高間 成之(38): 2021年のごあいさつ まだまだ覚えたいことがあります。残念ですがすぐ忘れる。「忘れるよ 皆な同じ と八十路友」。図書館通いは楽しいルーティーン。信陽舎の情報を楽しみにしております。
- 古島 史雄(47): 恭賀新年 コロナ禍も終息して笑顔が戻りますように。今年もよろしくお願いします。都の立入検査では厳しい指摘がなかったとのことなによりでした。コロナ禍で困難な状況の中、日々ご尽力頂いておりますこと敬服しております。
- 北原東亜夫(55): 輝かしい年の初めに皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。コロナが終息し気軽に一献傾けたいのもですね。
- 久保田光昭(58): 本年が皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。信陽舎に関していつも頑張ってくれてご苦労様です。
- 浜 国昭(65): 傘寿 体力・気力・脳力・経済力ともあらがえない年齢域に到達。これから残り少ない人生の日々悔いのないものにしたいと夢のなか。本年はコロナを越えて素晴らしい年になって欲しいものです。皆様のご多幸を心よりお祈りします。理事長と「信陽舎」のさらなるご発展を祈念しています。
- 林 史典(67): 新春を寿ぎ 謹んでお慶び申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。心から敬服しております。御身お大切をお願いします。
- 小池 章(76): 新しい年が素晴らしい一年でありますよう心からお祈り申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。
- 嶋岡 洋平(78): 新年は新型コロナに心配のいらぬ世になってほしいですね。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
- 北原 靖久(81): 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。信陽舎に対する熱い心遣い有難うございます。
- 神波 潔(85): 明けましておめでとうございます。コロナに打ち勝つ年になるよう願います。信陽舎舎友会の連帯を!
- 牧内 良平(91): 謹賀新年 新聞社、テレビ局を経て大学経営。異業種を三つも経験するという恵まれた人生に昨秋、終止符を打ちました。足掛け60年。困難に直面しながらも、概ね順風満帆な日々でした。でも、考えてみると、間もなく83歳。このへんが潮時です。毎月、杯を交わしている仲間たちから、「一番長生きする」と励まされ、今更ながら「生きる」とに目覚めました。生きてこそ、と。そんな私です。今後ともご指導ご鞭撻を心よりお願いし、新春の挨拶とします。年金生活に、ゴルフでもやりましょう!
- 中田 篤(96): 謹賀新年 今年もよろしくお願いいたします。
- 坂 好章(99): 謹んで新春のお慶びを申し上げます。新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。
- 中山 卓(103): コロナ禍の新春。静かに過ごしております。ご自愛のほどを!
- 池神 利勝(109): 謹賀新年 コロナ禍、くれぐれもご自愛ください。
- 片桐 勝臣(110): 謹賀新年 年末年始あれこれ取り紛れてしまい、恐縮ながら松が明けてからの送信となってしまいました。ご多忙の折柄、コロナ禍には充分にご注意ください。
- 五嶋 昭(112): 賀春 お元気ですか? 今年こそお会いできるのを楽しみにしています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



下伊那郡高森町より伊那谷遠望

《 2021年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

- 小平 国俊(113): 謹賀新年 コロナ禍の中で正月を迎えましたが、早期の収束を願うばかりです。 当地(飯田)で信陽舎舎友会があれば是非出席したいと思います。
- 深澤 克巳(115): 謹賀新年 皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。
- 福田 璋夫(116): あけましておめでとうございます。 昨年は巣ごもりの中で数々の思わぬ発見ができた年でした。 今年も飛び出して楽しめる年になることを願っています。 早く一杯やりたいですね！
- 土屋 雅敬(129): 謹賀新年 新型コロナの早期収束を祈っております。 お身体くれぐれもご自愛ください。
- 常盤 昌昭(136): 謹賀新年 輝かしい念頭にあたり皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 本年もよろしくお願いいたします。
- 竹村 治恭(140): つつしんで新春のおよこびを申し上げます。 本年も宜しくお願い致します。 自由に行き来できるといいですね。
- 浜 太美治(143): 明けましておめでとうございます。 このたびは、心暖まる年賀状をありがとうございました。 これまで総会案内や会報「武蔵野」をご送付くださり感謝申し上げます。 羽生玄子寮母さんの話や信陽舎の理念・目的などを拝見し、感動しました。 心から敬意を表します。 私からはご無沙汰ばかりで誠に申し訳ありません。 気にしながらも、前向きなお返事ができないことに戸惑いつつ今に至りました。 …(中略)… (今は)危機的な状況に対応するよう、全生活をシンプルにと、趣味や諸団体との関わりも見直しています。 そんなわけで、舎友会の会合に出席は難しく、昨年竹村さんからの連絡にもきちんと返事ができずにすみません。 信陽舎の魅力について年頃の孫を持つ知人には私の体験談や良さを話そうと思います。 あなたの明快な考えによる信陽舎に入居できる人は生涯の幸運だと思います。 お元気で活躍下さい。
- 原 鍊造(144): 恭賀新春 昨年はコロナ禍により大変な一年でした。 一刻も早い終息を願うとともにご尊家皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。
- 平沢 忠明(145): 迎春 幸せな一年でありますようお祈り申し上げます。 本年も宜しくお願い致します。 寮生が増えることを祈っています。
- 生嶋 正和(146): 謹賀新年 輝かしい新春を迎え、皆様のご清福をお祈り申し上げます。 本年も何卒よろしくお願いいたします。
- 伊原江太郎(147): 謹賀新年 母キヨは満百歳を迎え万感の思い 永き人生数多の出来事を乗り越え 今なお身の回り全て自分で。 いつも教唆に富む話に学ぶこと多しです。 コロナが当分続く中、寮の運営に支障なきよう努めたいと思っています。 力不足ですが宜しくお願いします。
- 葛岡 龍夫(151): 謹賀新年 今年もよろしくお願いいたします。
- 鈴木 昭夫(154): 謹賀新年 皆様の幸多き年でありますよう心からお祈り申し上げます。 今年もよろしくお願いいたします。
- 仲田 哲夫(155): 謹賀新年 本年もよろしくお願いいたします。 ご多幸を祈念します。
- 牧野 憲治(157): 謹賀新年 本年益々のご健勝・ご多幸を心より祈念申し上げます。 大変な時代が当分続きそうですが、益々のご活躍を祈念しております。
- 松山 順治(158): 謹賀新年 いつも信陽舎舎友会の件でお世話になっておりお礼申し上げます。 昨年はコロナ禍で全て自粛の生活となり落ち込みましたが、一人で近郊の山や近くの野幌森林公園を歩き自然とふれあうちに、ニューノーマルの生活にも慣れてきました。 まだまだ巣ごもり生活を強いられそうですが、どうぞご自愛ください。
- 金田 憲治(164): 新年あけましておめでとうございます。 旧年中は大変お世話になり心から御礼申し上げます。 今年も宜しくお願い申し上げます。 目に見えない菌が一瞬にして世の中を混乱の渦へ。 人間の傲慢ですかね？ ご多幸をお祈りいたします。
- 伊藤 寿彦(162): 賀正 「年を重ねただけでは人は老いない。 理想を失う時に初めて老いが来る。 歳月は皮膚のしわを増やすが、情熱を失う時、精神はしぼむ」(サミュエル・ウルマン『青春の詩』より)
- 櫻井 康夫(166): 謹賀新年 昨年はコロナ禍がひろがり大変な一年となりましたが、いかにお過ごしでしょうか。 我が家も巣ごもり生活を余儀なくされましたが、マスク着用のウォーキングは例年になく増えたようです。 今年こそ早期に終息し、希望ある一年になる事をお祈りいたします。 くれぐれもお身体にご留意ください。
- 浅沼 弘愛(172): Happy New Year 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。 旧年中は大変お疲れ様でした。 本年もよろしくお願いいたします。
- 五島 久揮(176): あけましておめでとうございます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。
- 中村 克己(190): 謹んで新年のお慶びを申し上げます。 昨年はコロナ禍の一年となり、ステイホームの毎日になって、楽しい山歩きも難しく近所のスポーツクラブも退会して運動不足の日々になりました。 今年にはコロナワクチンの開発に期待し世界中での収束を願い、楽しく明るい年になることを祈ります。 本年もよろしくお願いいたします。
- 水上 壺雄(194): 謹賀新年 本年もよろしくお願いいたします。 長野でお会いできることを楽しみにしています。
- 田尻 実(207): 謹賀新年 幸多き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。 昨年6月に孫が一人増えました。
- 寺島裕一郎(217): 謹賀新年 コロナが収束し、お互い早く安心して行き来できるよう願っております。
- 原 誠(220): 謹賀新年 疫病退散 よき年でありますように！ 本年もよろしくお願いいたします。



前山寺三重塔



国宝・八角三重塔



《 2021年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

山口 章裕(222): 恭賀新春 今年もすばらしい年でありますよう心からお祈りいたします。 今年もよろしくお祈りいたします。

杉本 研一(254): 謹賀新年 新春を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 食堂に掛かっていた福興先輩の絵は私の青春の思い出の一つです。 本年もよろしくお祈り致します。

佐藤 正之(261): 初春のお慶びを申し上げます。 皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

田中 誠一(262): 幸せいっぱい的一年になりますように！ 親御さんの気持ちからすると県人寮はとても嬉しい存在です。しかし、知らない(情報が無い)方ばかりです。首都圏の10寮(?) 合同の案内があると良いと感じます。

《事務局注: 長野県人寮は年々減少し、現在6寮で、今年3月末に閉鎖する寮があり5寮となります。

引き揚げ労働者

合同の案内としては、長野県(教育委員会)のホームページに長野県人寮として5寮合同の案内が掲載されております)

田村 裕昭(264): ほっこりあったか 幸せな一年でありますように うしどし。

福澤 秀志(266): 初春のお慶びを申し上げます。 新しい年が皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。 本年もよろしくお祈り申し上げます。

青柳 淳英(280): 頌春 新しい年が素晴らしい一年でありますようお祈り申し上げます。 コロナ禍、大変ですが今年も宜しくお願いします。

岩原 伸(290): あけましておめでとうございます。 皆様のご多幸をお祈りいたします。 本年もよろしくお祈りいたします。 今年も還暦です。 感慨深いですが、オンライン授業、ICT、新しい学び……。 のんびりしてはいられません。 息子が御世話になっております。 ありがとうございます。

池野 兼浩(298): 明けましておめでとうございます。 新しい年を迎え皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 本年もよろしくお祈り致します。 コロナ禍の折、ご自愛ください。 寮の行事に参加し一献できることを心から祈り、期待しております。

高野 雅彦(302): 初春のおよろこびを申し上げます。 明るく平和な一年でありますようお祈りしております。

吉村 信二(309): 謹賀新年 たくさん良い事ありますように。 去年は信陽舎総会が延期となり残念でした。 今年も宜しくお願い致します。

小林 隆(354): 謹賀新年 健康でしあわせいっぱい的一年になりますように。 尚登が大変お世話になっております。 今年もどうぞよろしくお祈り致します。

瀧澤 如(390): あけましておめでとうございます。 信陽舎学生寮にお世話になってから25年近くたちますが、今でも、春になるととてもきれいだっ信陽舎のそばの桜並木が思い出されます。 寒い日が続きますが、風邪をひかないように気を付けて下さい。

坪木 崇(408): 謹賀新年 本年もよろしくお願い申し上げます。「少子化にコロナ禍に」と大変ですが、「ピンチをチャンスに」をモットーに過ごしていきたいと思ひます。

下岡 祥平(524): 謹賀新年 今年もすばらしい年でありますよう心からお祈りいたします。

立野 稜(564): 謹んで新年のお慶びを申し上げます。 時間をつくり、信陽舎の集まりに参加したいと思ひます。 信陽舎の今後の発展をお祈りいたします。

後田健太郎(593): 明けましておめでとうございます。 コロナの影響で、1月20日に司法試験の合格発表となります。(1月20日のLineにて)無事に二次も合格いたしました。

御子柴優樹(597): 迎春 昨年より”モー”っと楽しい一年になりますように！ 今年もよろしくお願い致します。

両角 旺大(610): 謹賀新年 幸せな年になりますようお祈り申し上げます。 学生時代は大変お世話になりました。 寮生活で学んだ事を活かし現在も頑張っております。

宮崎 健太(615): HAPPY NEW YEAR Wishing you all the best for the year 2021 あけましておめでとうございます。 旧年中はお世話になりました。 なんとか身体は元気になっております。 福興さんもお体に気を付けて今年もご活躍なさって下さい。 また落ち着いたらお会いできることを楽しみにしております。

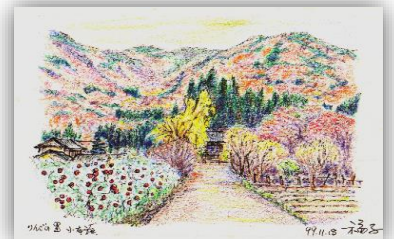
宮田 友和(617): 新年のお慶びを申し上げます。 今年もよろしくお願い致します。

塚田 泰史(625): HAPPY NEW YEAR 今年もよろしくお願い致します。 去年はコロナで気が滅入ることばかりでしたが、今年は少しでも明るい年になってほしいですね。 ご健勝でいい一年になりますように。 信陽舎での経験を活かして元気に過ごしていきます。 福興理事長もお体に気を付けて良い年をお過ごしください。

渡辺 陽祐(630): 謹賀新年 新年明けましておめでとうございます。 早々に素敵な年賀状を有難うございます。 2月からアパートでひとり暮らしを始めました。 授業もオンラインになり巣ごもり生活でしたが、自炊を楽しみ、かえって充実した生活ができた1年でした。 感染症が猛威をふるっていますが、福興さんはじめ理事の皆さんにおかれましては、どうかお身体にお気をつけて収束後に元気で再会できることを願っております。 私も今年4年生、卒業研究頑張ります。

櫻井 駿一(640): 迎春 今年もよろしくお願い致します。 コロナ禍の中でも元気でがんばっています。

中村 翼(647): 明けましておめでとうございます。 私も早く寮に戻り仲間と楽しく生活できることを心待ちしております。 改めまして、今年もよろしくお願い致します。(注:Line での挨拶)



小布施・浄光院山門遠望

自粛生活の中、久し振りにボーリングを楽しむ寮生たち

11月8日（日）、現在寮に居る寮生11名の内9名と福興の10名が午後2時荻窪駅前のボーリング場「荻窪ボール」に集合。当初参加予定であった伊原副理事長は、同居する100歳の母親が熱を出したため参加を見合わせた。

午後2時10分から4レーンに別れてゲームを開始。コロナ禍で体力を持て余していた寮生たちは最初のころは力が入り過ぎてガーターが続出していたが、ゲームが進むにつれて疲れも手伝い肩の力が抜けてストライクも出始めた。普段の寮では見られない無邪気な笑顔や仕草・会話を見るにつけ、寮生一人一人の個性が垣間見られ、皆愛すべき素晴らしい個性の持ち主であることを再発見できた。

午後4時、全員が4ゲームを終えたところで大会は終了、記念写真を撮り、他の人に迷惑が掛からないように会場の外の通路にて成績発表（4ゲーム中の最高得点を採用）と表彰式を行った。土本寮長他三役が用意した賞品が優勝者、2位、3位とブービーメーカーに贈られた。因みに成績は以下の通りであった。



優勝：大久保龍太（177点）、2位：平林海斗（155点）、3位：山本裕斗（148点）、4位：権田敬太郎（147点）、5位：竹内亮人（146点）
6位：小林尚登（137点）、7位：土本涼也（126点）、8位：市澤文太（111点）、9位：福興卓臣（109点）、10位：坂口大成（108点）

大会終了後、席を武蔵境駅前のファミレス「サイゼリア」に移して午後5時より慰労会を行った。用事があるという平林君を除く9名で夕食を兼ねた楽しい慰労会となった。先輩寮生たちは、コロナ禍のため、寮の行事に初めての参加となった1年生の市澤君に優しく気を遣うなど、とても家族的雰囲気、リモート授業のこと、これからの人生や就職のことなど打ち解けて話が出来とても楽しい時間が持てた。

コロナ禍で、ソーシャル・ディスタンスだ、会話は控えろだ、リモート会議だ、リモート飲み会だ等々と、対面での人間関係が制約されてみて、改めて“直接対面＝ふれあい”の大切さを思い知らされたひとときであった。寮生活、協同生活の醍醐味というのは、風呂掃除であれ、避難訓練であれ、寮祭であれ、スポーツ大会であれ、“一つのことを皆で一緒に力を合わせて行う”ことにある。

その協同作業の中で自然と会話が生まれ、絆が深まるとともに、相手を思いやるという対人関係の在り方が身についていくということに参加した寮生たちは気づいたのではないかなと思う。

今後は、感染予防対策を十分にとつたうえで、寮生との直接対面・対話の機会を見つけ増やしていきたい（その二日後になって快い筋肉痛を覚えながら）つくづく思った次第です。（福興記）



コロナ禍の中、ささやかに行われた2020年の寮祭

11月21日（土）恒例の寮祭が行われた。当初、飯田から参加予定であった池野理事は、前日にお父さんが入院（軽い脳梗塞）されたということで残念ながら欠席となった。今回は新型コロナ禍のため、規模を縮小し、寮生と寮母さん理事2名の13名で行った。五平餅づくりは、秘伝のタレや焼き方などの技術伝承のために今回も行ない、焼き上がった五平餅の一部はケアハウスのお年寄りにも届けた。

朝から、餅づくりタレづくりをして午後2時頃から2階テラスにて炭を熾し、五平餅を焼き始めた。午後4時頃には五平餅が焼き上がりはじめたので、炭の残り火を利用して、4年生・松井一史君の差し入れのピザやスルメ、チーズなどを焼きながら軽く一杯缶酎ハイ！

今回は、開始を30分繰り上げて午後6時開宴となった。大テーブル2つに6名づつソーシャルディスタンスをとって着席。大久保副寮長の司会でスタート。土本寮長の開会挨拶では、今年は新入寮生歓迎会もできなかったで、本日は1年生の市澤君の歓迎会を兼ねて行いたい。コロナ禍の中での開催なので、感染対策を十分に取ったうえで、楽しんでいただきたと話した。会は、理事長挨拶、伊原副理事長の乾杯挨拶と続いて、久し振りの楽しい寮祭が始まった。宴半ばには土本寮長はギター演奏、大久保君は歌を披露。

少人数のため、一人一人と人生観やコロナ後の社会と将来、就活の行方等々・・・じっくりと話ができ、とても意義深い時間となった。あまりに楽しかったため伊原副理事長から「理事長！時間は大丈夫ですか？」と声を掛けてもらって気づいたら時計は夜10時を回っていた。しまった！慌てて帰り支度をして後ろ髪を引かれる思いで、寮を後にした。結局、あざみ野駅に着いたら終バス時刻は既に過ぎており、家にたどり着いた時には、日付が変わっていた。（運営記録より）



2階テラスにて五平餅を焼く寮生と寮母さん



坂口・平林・松井・山崎・山本・伊原副理事長
小林・市澤・福興理事長・土本



主役の1年生市澤君



松井君・大久保君・小林君・長谷川寮母さん



土本君のギター/大久保君の歌

令和3年2月27日 卒寮生送別会

東京のお母さん(長谷川寮母さん)の心のこもった手料理のお別れ会



コロナ禍のため全員マスク着用、食事の時は会話は控え黙々と食べ、会話の時はマスクしてと記憶に残る送別会となった

令和3年2月27日午後6時より卒寮生送別会が、コロナ禍のため最小人数でさやかに執り行われた。9月に退寮した塚田君も最後の思い出にと岡谷から参加した。ケアハウスのお年寄りも、参加できないけれど、4年間お世話になったと、卒寮生7名一人一人宛にお礼の色紙を作成してプレゼントしてくれた。

所用で訪れた福田評議員からはリンゴジュースを差入れして頂いた。また、毎年参加頂いていた飯田の池野理事からは、「コロナ禍のため成長した4年生の顔を拝見出来ないのは誠に残念ですが、卒寮生に宜しくお伝え下さい」とのメール・メッセージを頂いた。

午後6時、後輩の在寮生が会場(食堂)の入口に整列して拍手する中を卒寮生7名が入場して着席。コロナ対策で卒寮生7名は奥の大テーブル、後輩寮生6名と理事2名は手前の大テーブルと別れて着席した後、大久保、市澤副寮長の司会進行で会は始まった。まず、土本寮長の開会の辞では、「卒寮される先輩7名は、それぞれ個性豊かで多士済々、自治活動や協同生活の面ではよくお手本として厳しく指導いただき感謝しかない、皆さんが居なくなるのは残された私たちにとって心細く淋しい限りです。社会人として大いに活躍下さい」と感謝の言葉を述べたところ、すかさず、卒寮生の山本裕斗君から「残された私たち」なんて言われると、俺たちがあの世に行つたみたいじゃん!と突っ込みが入り、参加者一同大爆笑となった。

続いて、祝辞と指名された理事長(福興)は、これまで寮会で話してきた講話全50話を5冊に纏めた講話集を卒寮生全員にお祝として贈呈し、「講話の中では、偉大な先人たちの生き方(人生観)や考え方(思想)など、教訓となる貴重な言葉をたくさん引用させていただいたので、ここには珠玉(しゅぎょく)の知恵がたくさん詰まっています。直ぐには役立たないかもしれませんが、ことあるごとに、悩んだときや行き詰ったとき等に何度も読み返して頂ければ、皆さんの人生を豊かなものにするために、決して無駄にはならないと確信しています。皆さんが幅広い教養と豊かな感性、そして鋭敏な思考力を身につけて、多くの人々と信頼関係を築いていただくための一助となれば幸いです。そして、将来のいつの日か、この寮で過ごしたことを誇りに思っていただけになれば、私は本望です。

皆さんが、豊かな感性と優れた人格をみにつけ、多くの人々に尊敬され、頼りにされる社会人となってくれることを切に願っています」と送る言葉を述べた。

続いて、伊原副理事長が挨拶に立ち、「以前、理事長から会社で話された分厚い朝礼講話集を頂いて読ませもらっているが、とても感銘深い内容だ。

今は難しく感じるかも知れないが、社会人としての経験を積んでから読み返してみると、なるほどと納得できる教訓となる内容がふんだんに盛り込まれているので、是非、人生のバイブルとして大切に、何度も読み返して頂きたい」とはなむけの言葉を述べられた。

次に、土本寮長の音頭で乾杯をしてから長谷川寮母さんが心を込めて調理した豪華な料理に舌鼓を打った。宴の半ばには、後輩寮生たちから卒寮生7名全員に、卒寮祝のネクタイとケアハウスのお年寄りからのお祝いの色紙がプレゼントされた後、卒寮生が一人づつお礼とお別れの挨拶に立ち、4年間の思い出や失敗談、社会人としての抱負、後輩たちへのアドバイスなど様々な話が披露された。今回卒寮していく寮生たちを高く評価していた長谷川寮母さんなので、ことのほか熱を入れて調理してくれたご馳走はとても美味しく、卒寮生達は4年間親しんだ寮母さんの手料理をかみしめるように黙々と味わっていた。調理後に宴に加わり、嬉しそうに料理を頬べる卒寮生たちを見つめる寮母さんの我が子を見るような慈愛に満ちた目は、嬉しそうでもあり心なし寂しげにも見えた。(運営記録より)



寮母さんの手料理をしみじみと味わう卒寮生たち



後輩の寮生たちから卒寮祝として贈られたネクタイを試着して喜ぶ卒寮生たち

《 運営報告 》

コロナ禍に振り回された異例の一年

信陽舎、ケアハウスともに「感染者ゼロ」にホッ！と胸をなでおろした一年

2020年度は、4月に入った直後に新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言が発令され、多難なスタートとなりました。そのために新入寮生のオリエンテーションや歓迎会は中止となり、大学の入学式も中止、授業もリモートとなり、大学のキャンパスに足を踏み入れることもできず、大変に可哀想な門出となってしまいました。コロナ禍で始まりコロナ禍で終わった1年で、寮生活を始め寮の運営も舎友会活動も思うに任せず、右往左往させられた一年でした。特に、大人数が集まる会議（法人理事会や舎友会等）は、6月の定時評議員会を除き、ほとんど開催できず、中止か書面（みなし決議）開催となってしまいました。しかしながら、現時点で関係者の中から感染者が出ていないことが幸いです。

《 2020年の行事・イベント等の開催実績 》

【法人運営】	5月決算理事会《中止・みなし決議》、6月定時評議員会《開催》、9月臨時理事会《中止・みなし決議》 1月～3月入寮面接選考《中止・書類選考決定》、3月定時理事会《中止・みなし決議》
【寮の行事等】	4月新入寮生オリエンテーション《中止》、4月新入寮生歓迎会《中止》、10月秋のスポーツ大会《実施》 11月寮祭《縮小実施》、2月卒寮生送別会《縮小実施》
【ケアハウス行事】	7月夏の夕食会《実施》、11月介護と福祉の地域祭《中止》、12月年忘れお楽しみ会《参加見送り》
【合同避難訓練】	6月日中避難訓練《中止》、8月夜間避難訓練《実施》、10月日中避難訓練《実施》、12月夜間避難訓練《参加見送り》
【舎友会運営】	5月役員会《中止》、8月役員会《中止》、9月第6回総会・懇親会《中止》、1月役員会《中止》



事務局・編集部便り



訃報！

舎友会飯田・南信支部
会長 下平 肇様ご逝去
ご冥福をお祈りいたします！

下平 肇 様（舎友No.87、1961年～66年在寮）

令和3年3月22日、舎友会飯田・南信支部会長の下平肇様が肺炎のためご逝去されました。昨年の秋に腰を痛められ通院治療されていたが、今年に入り食が細くなりあまり食べられなくなったとのこと、3月16日にご自宅で倒れられ救急入院されていたと親しかった舎友の坂 好章様からご連絡がありました。



年会費の納入にご協力を！！

信陽舎舎友会は、舎友の皆さんの交流・親睦と寮の運営を後方支援することを主な目的として、年1回の総会開催、年2回の会報発行が主な仕事となっておりますが、その運営に関わる様々な費用は舎友の皆さんに納入頂く年会費によって賄っております。また、運営に携わっていただいている役員（舎友）の皆さんは全てボランティアでご協力頂いております。

つきましては、このような事情をご理解いただき、毎年春にお送りする郵便振替用紙による年会費（2,000円）納入にご協力をお願い致します。

《 事務局からのお知らせ 》

☎ お便り大歓迎！ ☎

常時、舎友の皆さんの便りを募集しております。いつでも受け付けますので遠慮なく下記事務局までどしどしお便りをお寄せ下さい。

《 会報「武蔵野」編集委員 》

福田 璋夫(116)	福與 卓臣(117)
深澤 勝吉(135)	五島 久揮(176)
原 誠(220)	仁科 圭右(306)
田中 淳一(470)	岩原 優(580)

☎ 舎友名簿に関するお願い ☎

舎友会では、個人情報保護の観点から「舎友名簿」の発行は行っておりません。同期会又は各地区舎友会等を企画される折に、該当する舎友の連絡先を必要とされる場合は、下記事務局までお問合せ下さい。

文中挿入の挿絵等の作画は福與卓臣

発行人： 福田璋夫（舎友会幹事長）
事務局： 福與卓臣（舎友会事務局長）
〒225-0026 横浜市青葉区もみの木台 34-8
☎(045)902-2575 携帯☎ 090-9841-6349
E-mail : tof2943@citrus.ocn.ne.jp

会報「武蔵野」第8号 令和3年4月1日発行